

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

非核平和施策の拡充を求めて

石川県人権推進室と懇談

県内の非核平和行政の取材シリーズ(七回目)は三月二五日、石川県総務部人権推進室を訪問した。人権推進室は平和行政を担当しており、非核石川の会が昨年四月、県内自治体に非核平和施策アンケートを行う際に事前相談した経緯もあり、快く懇談に応じていただいた。



加賀友禅パネル「鬼となりても」の製作者、志田弘子さんの寄稿文は5面に掲載

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

石川県は小谷実人権推進室次長、林信隆同室員、非核石川の会からは尾西洋子、永山孝一両常任世話人、神田順一事務局長、川本浩平事務局次長が懇談しました。

当会からの要望事項にもとづく懇談内容を報告します。**〔会〕**：非核石川の会、**〔県〕**：県人権推進室

① 日本非核宣言自治体協議会に加盟し、自治体ネットワークの利点を生かして平和事業の拡充を図ること

〔会〕県内では全ての自治体が非核・平和宣言を採択しているが、非核宣言自治体協議会への加盟は三か所(野々市市、内灘町、志賀町)だけである。一九九八年二月県議会で決議された「非核石川県宣言」にもとづき県が率先して加盟し、県下市町の加盟促進を図ってほしい。

〔県〕平和に関して人権推進室が担当しているのは、「人権」との関わりからである。人権推進室の主な施策は人権意識の普及啓発活動である。都道府県では、現在のところ神奈川県だけが加盟していると聞いている。引き続き、他県での今後の取り組み等について情報収集を進めていきたい。

〔会〕平和施策に関して人権推進室と各市町との直



金沢の住まいから何を学ぶかといえば、まず木構造文化。次いでコンパクトな集合の形式である町屋。さらに人間交流の街区構成である町屋型街区がある。木構造建築には神社・城郭、公家・武家住宅、町屋・農家などがあり、特にコンパクトな集合形式で「人間交流の街区構成」の町屋が注目される▼明治以来の欧化主義、とりわけ戦後経済の「高度成長」のもと、長い歴史に育まれてきた伝統的な住まい文化は後景に追いやられ、都市の無秩序な拡散と国土の荒廃を招いてきた日本。金沢も例に違わず、中心市街地は衰退し、都市の居住環境や自然景観は損なわれ、東日本大震災や原発事故なども重なり、住民の暮らしは追い詰められてきました▼「失われた二〇年」。この閉塞した経済社会からの自立には、輸出依存から脱却して、社会保障や地方経済再生への転換が不可欠。県産材育成への障害が危惧される「TPP」など論外。ここに、後退したとはいえない日本的なものを記憶に残す金沢は、住文化の再生・発展に寄与する資格と責任があります。その意味でも「まちを解説する資格と責任がなく、自ら住まわちを編集」するⅡ住民自治Ⅱの前進が求められていると思えます。(一)

接の連絡網はあるのか。昨年の自治体アンケートではいずれも「総務課」が担当窓口となっていたが。
県現在のところ特に各市町の担当窓口は把握しておらず、連絡網も設けていない。

② 毎年の国民平和大行進や原水爆禁止世界大会参加者への激励挨拶や世界大会への支援募金を

会国民平和大行進では全ての自治体を訪問しており、ほとんどの首長や議会議長等から激励挨拶や支援募金が寄せられている。庁舎前での出発集会や平和行進参加者を職員が拍手で迎えてくれる自治体もある。石川県では県議会議長からメッセージが届くこともあったので、「非核石川県宣言」を掲げる石川県知事からもメッセージを寄せていただきたい。

県どのようなことが出来るのか、他県での取り組みも参考に調べてみたい。

③ 日本原水爆被害者団体協議会作成の「原爆写真パネル」を購入いただき、「パネル展」を開催し被爆の実相を広げること

会一〇年程前から県庁一九階展望ロビーで石川県原爆被災者友の会主催によるパネル展「原爆と人間展」が行われている。展望ロビーを利用できることは大変ありがたいが、被爆者は高齢化しており、会の活動の継続もだんだん難しくなっている。日本原水爆被害者団体協議会が新たに製作した展示用パネル「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」（全三〇枚）を石川県でも購入し、活用してほしい。

会「原爆と人間展」パネルを所蔵している金沢市

や野々市市では、被爆の実相を広く伝えていくため毎年開催場所や展示方法を工夫して「パネル展」を開いている。担当職員は平和事業の予算がなくても頑張っていると話されていた。

県石川県庁では毎年八月六日、九日に原爆投下された時間に原爆死没者の慰霊並びに平和祈念の黙祷している。私も県庁内で「原爆と人間展」が行われているときは鑑賞している。県内各市町での「原爆と人間展」パネルの所蔵状況と活用法について、把握されていれば教えてほしい。

会次回の「非核平和施策に関する自治体アンケート」に追加して調査する。パネルの販売価格はラミネート加工版一セット三九、五〇〇円である。ぜひ実行していただきたい。

会会報第一七六号で紹介した輪島市の故・清水正明医師の被爆絵画（一三点、解説付き）は、平和を築いていく『県有財産』である。このような平和事業の掘り起しは大事であり、非核石川の会でもひろめていきたい。輪島市は被爆絵画の貸出しにも応じており、多くの県民の目に届くよう活用をお願いしたい。

県輪島市で被爆絵画展を開いているときに見に行きたいと思う。どのような活用法があるのか整理してみたい。

④ 原爆被害の実相や核兵器の非人道性を継承するため、毎年広島で行われる平和祈念式典への県民の派遣と予算措置を

会私たちはこれまでの取材で、中学生代表を二四年連続で広島平和祈念式典に派遣している野々市

市、中学生の広島への修学旅行を二五年間続けている能美市等からお話を聞かせていただいた。しっかりとカリキュラムを組んで事前学習を行い、全校集会や広報を利用して事後報告も行われている。県はこのような先進的な取り組みを支援し、県下全市町にひろめてほしい。

県現在の予算事情のなかで、どのようなことが出来るのか整理してみたい。

会「非核石川県宣言」にもとづき、県としての役割を果たしていただきたい。

⑤ 「非核平和宣言塔」や「宣言モニュメント」の建立を

会県内では宣言塔（標柱）やモニュメントを建立している自治体は八か所だけである。「非核石川県宣言」をアピールするために県庁舎前あるいは県庁跡のしいのき迎賓館などに宣言塔を建ててほしい。小松市では八月に庁舎前に「非核平和小松市宣言」の懸垂幕を掲示している。県庁一階ロビーでも懸垂幕を掲示できないか。

県県内の市町での設置については聞いているが、参考に他県での設置状況について調べてみたい。

会私たちも調べてみるが、非核平和施策については石川県が率先して実施することを要望したい。

【編集室より】

会報「非核・いしかわ」は二〇一二年四月号から県下全自治体の首長と議会事務局に送付している。非核平和行政に関する取材シリーズが県下各自自治体の施策推進に役立ててもらえば、との思いからです。

東海北信越ブロック交流会相談会を

金沢で開催

四月六日(土)、金沢市近江町交流プラザで東海北信越ブロック交流会相談会が開かれました。相談会は全国の会(非核の政府を求める会)の第二七回総会方針に基づき開催されました。対象の県は、岐阜県民の会、静岡の会、愛知の会、三重の会、新潟県民の会、富山の会、石川の会、福井の会、長野の会の九県です。

相談会の開催趣旨

全国の会駒場忠親常任世話人より、非核の政府を求める会二六年の歴史は、非核五項目と非核の会の重要性、非核平和運動の前進に大きな役割を担っていることを強調されました。そして、

- ① 活動の交流と学び合いを運動の前進の契機に。
- ② 年一回各県持ち回りで。
- ③ ホスト県(主催県)は県内の学者、研究者、加盟団体や平和友好団体などにも呼びかけ、非核の会の理解と協力を広げる機会に。
- ④ 各県の会からは複数の参加と主催県は二桁の参加をめざし将来は百人規模の交流会に。
- ⑤ 学習会、活動交流、懇親会などの持ち方まで具体的に趣旨説明されました。

近畿ブロックと静岡、愛知の会の活動

今回、大阪の会から長尾正典常任世話人が大阪の経験を交えて近畿ブロックの活動を紹介いただき

ました。昨年で一四回、年二回を各府県持ち回り開催です。京都の会は学者研究者が多く、滋賀の会は地方に支部があり、彦根市長は平和市長会議に未参加の首長に働きかけ、署名行動は自治体に配慮した内容で、ユニークな活動。大阪の会は原水協(百貨店)と非核の会(専門店)の違い、運動団体か研究団体か、平和団体とのすみ分けなど。京大の原子炉実験所見学を一般公開に合わせて実施、交流と懇親、悩みの吐き出しなど多彩な経験を報告されました。静岡の会と愛知の会からは自治体アンケートやニュース発行、財政問題などが報告されました。

石川の会 機関紙中心の活動を報告

石川の会の代表世話人は県外活動中のため、永山孝一常任世話人が歓迎と非核石川の会のことを簡潔に述べました。神田順一事務局長は二五年の実績と組織の現勢、会報を前面にした活動と自治体訪問の成果を報告しました。特に自治体訪問の力になったのは、埼玉の会の非核平和施策アンケートを参考に、自治体アンケートを実施したこと。それを自治体にフィードバックしていることで自治体に変化を与えていることを強調しました。川本事務局次長は財政問題を中心に、他の常任世話人もそれぞれ会に寄せる思いを語りました。

初回交流会は来春、愛知の会が準備

相談会は第一回の交流会を愛知の会が主催すること、第二回は静岡の会が受け持つことを確認し閉

会となりました。今回は静岡の会と愛知の会、石川の会の三県でありましたが実り多い相談会でした。石川の会からは原和人全国の会常任世話人はじめ八人が学び合いました。その後、近江町食堂に場所を移し、懇親を深め親近感が増しました。(文責＝編集部)

全国の会からのお礼

東海北信越ブロック交流会相談会は、三県の出席でしたが、内容は非核の会の存在感を示すものとなりました。静岡や愛知の会の代表が、今後の交流会開催に賛同し、愛知の会が次回の開催県を快諾されたことは大きな成果の一つと考えています。

とはいえ、東海北信越ブロックで交流するには、時間的・財政的に関東や近畿ブロックにはない大きな負担が伴います。数県は再建が必要という事情もあります。しかし、それだけに、再建し各県の会が着実に歩みをすすめるうえで、この交流会の力は具体的な支え、励ましになると思います。

早速、長野の会から会を再建し、次回の交流会には参加しようと相談しているとの連絡がありました。

今回は欠席となったものの、電話で直接相談しあった岐阜や福井の会とは、再開にこぎ着けられるよう尽力します。いろんな意味で今回の相談会が新たな前進の芽を育んだことは確かでしょう。

石川の会の皆さん本当にありがとうございました。(非核の政府を求める会事務室長 斎藤俊一)

井上英夫・退官記念講演(要旨)

新たな福祉国家を展望する

—人間の尊厳と住み続ける権利—

三月二〇日、非核石川の会代表世話人・井上英夫さんの金沢大学退官記念講演「新たな福祉国家を展望する—人間の尊厳と住み続ける権利—」が開催され、井上さん所縁の多くの人々がごぞいまいました。

価値観の転換 —新たな福祉国家構想

井上さんは新たな福祉国家構想は価値観の転換であると提起しました。利潤とそのための効率化を追求するのではなく、生活の質や豊かさへと価値観を転換する。例えば「過疎＝悪いこと」とされており、これは「大きいことは良い」という価値観にながっています。しかし問題は過疎ではなく、過疎に伴って医療や福祉、教育が受けられずその地域に住み続けられなくなることです。

住み続ける権利の保障は、保健・医療・福祉政策がしっかりと充実し、文化やコミュニティが形成され、つながりができることです。しかし、復興で強調されているのは堤防問題などのライフラインと、絆です。絆という精神主義ではなく、物も心も豊かにしていく必要があります。

貧困の実態

(1) 札幌市白石区姉妹餓死事件

二〇一一年一二月に札幌市白石区で、四二歳と四〇歳という若い姉妹二人の餓死事件がありました。

姉妹二人で亡くなっていることから「孤独」死ではありませんでした。地域からの「孤立」死でした。

井上さんは白石区へ申し入れを行い、再発防止にはケースワーカーの働きが不可欠であるが、職員不足で「真のケースワーク」を行えておらず、有資格の正規職員を増やす必要があることなどを提言。しかし、自治体職員やマスコミは「行政には限界がある」「再発防止には地域のつながりが大事だ」として、住民の見守りありきの考えでした。

(2) 静養ホームたまゆら火災死傷事件

二〇〇九年に群馬県の静養ホームたまゆらにて、入所者一〇人が亡くなる火災死傷事件が起こりました。たまゆらには墨田区の生活保護受給者が送り込まれていることから、政策的な生命侵害であり、貧困ビジネスの象徴と言えます。

震災と生命の価値

岩手県山田町の老人保健施設では、東日本大震災の際に津波に襲われ、入居者七四人が死亡しました。施設を運営していた医師は二重ローンを抱えながらも、施設を再建したいと話しました。

大川小学校でも避難が遅れたために、児童・教員七四人が津波にのまれ死亡しました。避難可能な山が近くにありながらも、避難マニュアルがなかったため、教員は避難が出来ませんでした。「自分で考えること」を養う教育を、日本が行ってこなかったと言えます。

また、山田町の老人保健施設で亡くなった高齢者の数と、大川小学校で亡くなった子どもの数は同じ

七四人でしたが、大川小学校では保護者が訴訟を起こそうとしているのに対し、老人保健施設では何の動きもありません。子どもと高齢者の生命の価値は異なるのでしょうか。人権の根本である人間の尊厳とは、「ひとりひとりの生命が大事」「他の誰によっても替えられない」ことです。

新たな福祉国家をめざして

新たな福祉国家とは、憲法の描く国家像を実現していくことです。しかしながら、憲法は時代の制約を受けた「時代の子」です。例えば、戦後の情勢を鑑みて憲法二五条にはとりあえず「健康で文化的な最低限度」の生活を営む権利を有する」と規定されました。しかし、一九六六年に国際人権規約で「十分な生活条件を保障する」と規定されたように、時代に合うよう憲法を発展させる必要があります。

「最低限度の生活で良い」というのは、劣等処遇の価値観です。生活保護を受けている人は、受けていない人より劣っているから最低限度の生活でいい、働いていない人は働いている人より劣っているので最低限度の生活でいい。このような価値観は未だ根深く存在しており、転換していかなければなりません。

東日本大震災の被災地で被災した人々に本当の気持ちを探ねれば、「政府に対してはらわたが煮えくりかえっている」と言います。彼らは黙した鬼です。その鬼たちが立ちあがるのを応援、あるいは代弁していくことが今後必要です。

(文責 長浦久実)

特別寄稿

鬼となりても

友禅染 志田弘子

人智の及ばぬ地球の身震いの前に、もろくも崩れてしまった安全神話。制御できないものと改めて知った原子力、目に見えぬ放射能の怖さ……。

九・一九さよなら原発での武藤類子さんの「私たちは今、静かに怒りを燃やす東北の鬼です」という言葉に、胸をつかれる思いだった。

能登に暮らす一人の母親として、今まで子を抱く喜びを染めてきたのだけれど、改めて気付いた。私の中にも鬼がいる。まなじりを釣り上げ髪を逆立て奪われてなるものか……と子を護る母、誰もがきつと持っているもう一人の母……「鬼となりても」という一枚を染めずにはいられなかった。

今、染めているもう一枚は、「皆、どこへ行った」という題で、水の中を小さな女の子が、鳥や花や木々や動物たちと流れてゆく構図で、描いている間は鼻の奥が痛い。「みんな、どこへ行った」……ふるさとを奪われ、かけがえのない人たちを亡くし、先の見えない苦しみの中でもがき続ける数え切れない人たち。哀しい瞳の動物たち。草花たち……けれど二年が経っても、なにこともなかったかのように、まだ空虚な豊かさを追い求めようとすると今の日本には、哀しみを統べる力も、先を見ようとすると姿も見えてこない。

言葉にできぬ大きな悲しみを経て、小さないのちたちに明日への希望を手渡すために、私たちはここにいないのではないのだろうか？大きな間違いを正

し、いのちの方向に舵を切ることでしか、この悲しみを償うことはできないだろうはずなのだけれど……。

この春、長かった冬を抜けて、花々が忘れず蕾を膨らませる。鳥たちが囁き始める。陽は輝き、風が渡り、真に豊かなものたちはまだ巡っていてくれる。

私たちこそがしっかりと先を見る眼を培わなくては。時に無力感にさいなまれても、私たちこそが声を出し続けねば……不気味に揺れ続ける地震国の上でのひしめき合う原発と、行き場のない廃棄物がもたらす愚かさを、子どもたちに背負わせるあまりに大きな絶望を……私たちが手渡さなければならぬものは、いのちの明日への希望なのだ……きつと、きつと、出来るから……と。

(染め絵「鬼となりても」を一面に掲載)

ヒロシマのある国が

児童文学者 かつお きんや

ヒロシマという言葉を見聞きする度に私の頭にすぐ浮かぶ名がある。それはあの時マレーシアから広島に留学していて被爆したアブドル・ラザック氏である。

一九八四年、当時東南アジア各地を舞台にしたシリーズを執筆中だった私は、ジャマイカの日本語研修で来日しているマレーシアの人から氏の名を知り、その四月中旬、広島滞在中の同氏と合うことができた。氏は二歳年下の私への親近感もあつてか、今度の来日の公式理由である貰ったばかりの真紅の被爆者健康手帳を気軽に見せてくれたが、その登録番号五一五一一の数字に私は絶句せざるを得

なかった。

それから氏は、太陽が一度に何百も落ちたようなあの一瞬から始めて、当日の長い一日の行動はもとよりその翌日から始まった留学先広島文理大の前庭での日本人と留学生たちとの野外共同生活の様子を、まるで昨日の出来事のように話してくれた。それもその筈、彼は帰国後やがて師範学校の教員となり、毎年八月六日になる度に学生にこの話をして来たとのことだった。

そこで改めてクアラルンプールでの再会を約束してこの場は終わり、十月上旬には同氏の自邸で生い立ちを語ってもらったその記録『マレーシアの語り人』は、汐文社から翌年一月に出版された。

その後私が読んだ原爆関連の本で心に残ったのは、その製造に関わった科学者の妻、フィリス・フイツシャーの時事通信社刊『ロスアラモスからヒロシマへ』である。夫の仕事内容を全く知らなかった彼女が、戦後次第にそれに疑問を持ち、夫の転勤先日本に来て広島を訪れた時の衝撃が鮮明に綴られていた。

そして今日、イランで、北朝鮮で、核爆弾こそ権力の象徴とばかりその製造に血の道を上げ、既得権を誇る保有国はその対応に途惑うのみの状態にある。更に「唯一の被爆国」と都合のよい時に叫ぶこの国の政府は、原子力の平和利用という美名の下、放射能垂れ流しの福島原発は放置のまま、他の原発の一日も早い再稼働に躍起になっている。

今こそ我が国民は核兵器絶滅、原発ストップの旗印を高く掲げて歩み出さねばと思うのである。

非核石川の会 リレーエッセイ

先人たちの不屈性に学びたい

秋元邦宏

日本共産党の志位和夫委員長の『綱領教室』の刊行が始まりました(新日本出版社)。新しい政治への大変革が求められる時代の大きな指針として、ぜひ多くの方々に読んで頂きたい本です。

衆議院で自公や維新の会などが多数を占め、反動的逆流が猛威をふるっているように見えることや、大手メディアが連日流す「アベノミクス」賛美やTPP推進など異常な政権持ちあげ報道を背景に、安倍内閣の「高支持率」現象もあります。こうした時だからこそ、「政治の表層の動き」に「がっかり」するのでなく、政治と社会の動きを根底からとらえ、展望をつかむ意識的な努力が大事で、『綱領教室』はその大きな力になるものです。

志位氏は、「目先のことに追われて、状況に流されてしまうのか、それとも情勢を『深いところから長い視野で』とらえ、『世界的な広い視野から』つかみ、社会発展の法則を我がものとして社会に働きかけていくのか」という大きな視点から綱領を学ぶ意義を強調しています。

第一巻では、戦前の絶対主義天皇制の暗黒政治のもとで、文字通り命をかけてたたかい抜いた小林多喜二をはじめ多くの先人たちの生きざまが紹介されています。「政治の表層」どころか命さえ奪われる暴圧のもとで、これに敢然とたたかい抜いたのはなぜか。志位氏は、「どんなに困難な情勢のもとでも社会進歩の大義を貫き、その事業が最後には勝利

する」という展望を失わなかった不屈性に学びたい」と述べています。新しい時代を拓いたたたかいへの励ましの言葉として胸に刻みたいと思います。

「アメリカ絶対のDNA」が日本の支配層に刷り込まれていった戦後政治の解明、安保条約の「表」と「核密約」など「闇」の全体の解明を通して、世界にも例を見ない異常なアメリカいなり政治の根源が浮き彫りになり、たたかいの展望も見えてきます。

こうした「学び」も力に、新しい歴史をひらく参院選勝利へ意気高く頑張りたいと決意しています。

最近の若い弁護士

飯森和彦

金沢弁護士会も全国と同様に弁護士の数がどんどん増えている。私が入会した二七年前は会員数は六〇名前後だった。しかし今は一五〇名程となっている。

こうなると顔も名前も分からない弁護士が大勢となる。そのため私は、総会での記念写真(名前も書いてある)を鞆に入れておき、時間のあるときに見て、顔を覚え、名前を覚えるようにしている。若い会員も参加する委員会では彼ら彼女たちを「鍛える」ために仕事(会内勉強会の裏方担当など)を割り当てるのがよくあるが、名前を知らずに「・・・え」と、その眼鏡かけている人の後の人」と言うのは三回はできないからだ。

全国で弁護士数がどんどん増えるとともに、司法試験合格者のための研修・講義が少なくなる中で、とんちんかん若い弁護士が増えているとも

言われている。しかしそれは言われているほどには多くないように思う。

むしろ当会では熱心で有能な会員が増えているように思う。たとえば、刑事弁護の勉強会には多くの若手会員が参加しているし、その裏方にもかかわっている。刑事弁護では罪を認めたくなくて弁護士が有利な情状を裁判官に訴える事件が圧倒的に多いが、そのような当たり前の変哲のない事件にかかわり、犯罪者が立ち直るのにより深くかかわろうとしている若手弁護士も多い。また、憲法九条違反などを理由に自衛隊機・米軍機の飛行差止めを求めている小松基地爆音差止め裁判や志賀原発運転差止め裁判はかなり前からある裁判だが、これにかかわる新人弁護士がどんどん増えている。

さらに、県内のある市が、地域の「まちづくり推進協議会」が広報紙で市政に疑問を呈したのに対して、補助金支給の停止や返還をちらつかせてその広報編集に介入し、ついに役員を辞任にまで追い込んだ事件で、元会長、元広報部会長らが自治体による介入を憲法違反であるとして訴えているが、これにも若手弁護士が参加してくれている。頼もしい限りだ。

では、私はそのような若手に「九条の会・石川ネット」や「非核の政府を求める石川の会」などの市民運動への参加をも訴えているかというところ、生来シャイな私はなかなか誘い出せないままでいる(懺悔)。が、このような時代状況でもあるので、私も毎月一人くらいはそのような話をしてみようかと考えている。酒の力も借りながら。

和定例句会報より

宿題「はったり」

岩原茂明 選

入選

居丈高にアメリカ頼みの喧嘩腰

一社

今の自民安倍のはったりでもっている

和子

NHKアベノハッタリ褒め称え

林

ハッタリがばれりや公約破り捨て

大峰

人位

はったりもオスプレイでボロを出し

大峰

祖父ゆずりはったりかます売国奴

一社

地位

虎の威を借るハッタリで国壊す

林

天位

はったりの血筋は妖怪岸の孫

啓

軸

はったりで安倍は公約言い逃れ

啓

詩人会議かなざわ「独標」より

尻尾について

喜多村 貢

人間に尻尾があった日を

誰も疑ったことはない

長い進化の過程ですっかり不用になり

今では尾氈骨として

時に手で触られるだけのものになりはてたからだろう

言葉や道具が人間と獣を区別する

決定的な違いだと社会科学者は言う

尻尾などは過去の遺物

獣に属した世界の話で

論ずるにあたいしないと喘う

学者も鼻が高くなったものである

成程 人間が獣から分化して

二足歩行になった瞬間

尻尾は邪魔な代物になった

だから 歴史と共に進化したと

彼らは指摘する

この まことしやかな異和感

チチンパイパイ チチンパイ

ないはずの尻尾よ尻尾

ほんとうはあるんだね 俺たちに

無視されて来たけれども

すっかり姿を変えて 生えていたんだね

獣の尻尾にまさる魔力を持つて

ほらほら 見るがいい

尻尾を振って

媚を売る奴 ゴマを播る奴

ほらほら 見るがいい

トカゲの尻尾切りで

面子を守る奴 保身を謀る奴

尻尾は立派にあると思わないか

《非核平和・行事予定》

・五月三日(金)一四時：輝け九条！平和憲法施行六八年石川県民集会・記念鼎談「東アジアの平和と九条」

・五月三日(金)一六時四五分：非核石川の会常任世話

・五月六日(月)一〇時半：国民救援会・国賠同盟・日朝協会合同「春の山菜交流会」吉野谷オートキャン

・五月三日(金)一六時四五分：非核石川の会常任世話

・五月六日(月)一〇時半：国民救援会・国賠同盟・日朝協会合同「春の山菜交流会」吉野谷オートキャン

・六月六日(木)一二時半：核廃絶署名Mza前
 ・六月八日(土)一三時半：石川県社会保険推進協議会
 会と記念講演「無縁社会 地域力で何ができるのか」
 板垣淑子NHKおはよう日本チーフプロデューサ
 ー・金沢市松ヶ枝福祉館

・六月九日(日)一三時：核戦争を防止する石川医師の会
 第二六回総会・記念講演「アース・ビナード講演
 会」金沢市文化ホール二階大集会室

・六月九日(日)：石川県母親大会記念講演・三上満教育
 研究者・石川県女性センター

・六月九日(日)～一四日(金)：国民平和大行進・輪島から
 内灘まで能登路行進(主催者発表で確認を)

・六月一五日(土)～二四日(月)：国民平和大行進・倶利伽
 羅から吉崎まで加賀路行進(主催者発表で確認を)

・七月四日(木)～二二日(日)：参議院議員選挙(予定)

絵手紙コーナー

絆は日頃から

金沢医療生協絵手紙班 竹味恭子



・八月三日(土)～九日(金)：原子爆禁止世界大会・広島&
 長崎(県代表団は七日～九日長崎大会に参加)

・八月四日(日)一〇時：第五回石川医療・介護研究集
 会・体験型学習講演会「よりそう介護と道具の関係
 ー生活づくりとしてのシーティング」講師：光野有
 次シーティングエンジニア/でく工房

・八月一〇日(土)：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟
 県本部総会・金沢勤労者プラザ

・八月二四日(土)～二五日(日)：日本母親大会・記念講演
 「憲法の息づく国に」伊藤真弁護士/伊藤塾塾長・
 東京&千葉

《編集室より》

◎本号記事にある東海北陸ブロック交流会、相談会
 で話題となったものの一つは、ネット環境の有効利
 用である。現状では、全国の『非核の政府を求め
 会』のHPも有効利用されているとは言えず、各地
 の非核の会の活動も会報も、互いに迅速に交流でき
 ていない。情勢は流動的なのだから、各地会報をど
 んどん公開するHPやメールリングリストを上手く
 活用しての情報共有など、全国の情報センターとし
 ての役割を全国の会に期待したい。(ま)

◎非核の会Ⅱ東海・北信越ブロックの第一回交流会
 (相談会)が四月六日(土)金沢で開催されました。
 戦後六八年で初めて開催された交流会であり、この
 機会に活動を始めて二年となる、会報『非核・いし
 かわ』編集委員会を紹介させていただきます。

*

石川の会事務局長であられた故・森昭さんの強い
 お勧めもあって、会報『非核・いしかわ』が新たに

集団的な編集体制となったのは二〇一一年の二月
 で、丁度二年前のことでした。思えばこの新体制で
 一五〇号～一七六号まで発行してきました。

この編集委員会は現在四名体制となりました。毎
 月開催するコンパクトな時間の会議ですが、神田事
 務局長のもと事前に十分準備され、手際よくとても
 楽しい会話に満ちています。合同の編集作業は、フ
 リーMLで事前に委員が分担して執筆・収集された
 原稿を編集長の割り付けで第一稿として提出され
 るところから始まります。記事の配置・紙面の割付
 へと進み、次号の編集企画まで一時間半程度の会議
 です。

この会議が非核石川の会の毎月の活動のリズム
 になっています。紙面は年間主要企画、時局に沿っ
 た特集、会員エッセイ、文芸面、その他で構成され
 ています。運動の企画と連動して、非核の世論形
 成に向けた多彩な紙面が求められています。そのた
 めには編集委員会を強化し、県下を駆け巡るより一
 層活力に満ちた『非核・いしかわ』が求められるの
 です。

*

いま日本全国で、さらには全世界での非核・平和
 を願う人々の運動が、利用可能な情報・通信の手段
 をフルに活用して、相互理解と交流を強め、それぞ
 れの地域での運動を広めていくことが大切です。

会報『非核・いしかわ』では既報目録と主要記事
 (第一五〇号・一〇一年一月～第一七六号・一三年三
 月)を、現在のところは編集委員フリーMLに登録
 して閲覧できるように準備しています。会員の皆様
 には、大いに活用をお勧めします。(こ)